

第 109 回 REAAA 評議員会出席報告

黒 田 孝 次*

まえがき

橋場 (REAAA 副会長, 日本道路協会 代表評議員) と黒田 (高速道路調査会 代表評議員) の 2 名がマレーシア, クラルンプールで開催された第 109 回 REAAA 評議員会 (10 月 30 日午後), YP 会議 (10 月 30 日午前), および同日夕刻からのビジネス・フォーラムに参加した。今回の評議員会は平成 30 年 5 月にブリスベンで開催された第 108 回評議員会に次いで開催された。前回の評議員会では 11 月初旬に計画されていた PIARC・ベトナム道路総局共同開催による道路災害セミナーに協調する形で, ベトナム・ハノイでの開催を予定していたが調整が不調に終わり, REAAA 本部のクアラルンプールで開催することになった。今回, REAAA 評議員会と同時に開催されていた PIARC セミナー, およびマレーシア道路協会 (REAM) の年次総会には PIARC 会長の Claude VAN ROOTEN 氏も参加していたため, REAAA の評議員会, ビジネス・フォーラムにメインゲストおよびスピーカーとして参加していただくことができた。REAAA と PIARC の協調, 協働の再確認ができたことは, 今回の評議員会の成果の 1 つとして挙げられる。Claude VAN ROOTEN 会長は横浜市で 10 月に開催された PIARC 大会の帰

途にマレーシアを訪問していた。

ここでは, 第 109 回評議員会の概要を報告するとともに, オブザーバーとして参加した YP 会議, ビジネス・フォーラムについても概略報告する。

1. 第 109 回評議員会 (10 月 30 日開催) の概要報告

(1) 会長挨拶および評議員会の成立

REAAA 会長の Momo 氏より, ①幸いにも PIARC から Claude VAN ROOTEN 会長に評議員会に参加していただき感謝申し上げたい。②9 月 28 日夕刻に発生した, インドネシア・スラウェシ島ドンガラ県パル市を中心とした地震, 津波および液状化現象によって大きな被害を被ったインドネシアの国民に対してお悔みを申し上げたい, われわれの活動は防災や減災を含んでおり, この分野での活発な議論を期待したい。③11 月にはベトナム・ハノイにおいて PIARC と協調している道路防災セミナーが開催されるため, 多くの評議員に参加を促したい。④2019 年秋 (10 月 6 ~ 10 日) にアブダビで開催される第 26 回 PIARC 世界大会に併せて第 111 回 REAAA 評議員会の開催を計画している。PIARC からの多くのサポートをお願いしたい。

(2) 議事録確認

次いで第 108 回評議員会の議事録確認が行われた。

* REAAA 評議員

2018年5月1日にブリスベンで開催された評議員会は第15期REAAAの活動を軌道に乗せるための重要な評議員会であったことから、議論の中心は喫緊の課題である財務状況と新しく設けられる技術委員会についてであり、財務関連では各国の自主的な会費徴収、技術委員会関連では技術委員会の構成、およびPIARCとの連携について議論された。第108回評議員会の議事録は異議なく承認された。

(3)財務報告

今回の財務報告は2018年1月～8月末日までの2018年度の8カ月の財務諸表、2019年財務計画、そして中期計画として2020年、2021年までの財務計画について行われたもので、この2年間で集中的に議論されてきた会費未納、幽霊会員への対策、さらには会員増による財務改善に一定の効果が発現したことが報告された。

2018年の8カ月間では会費収入(RM243,433)、広告収入(RM24,642)に改善がみられたことが主要因となり、RM37,467(日本円で約100万円)の剰余金が発生している。

2017年の年間収入は予算の約30%増しのRM371,475となり、REAAAの財務状況は赤字からRM29,906の黒字に転じたことは記憶に新しい。2018年も黒字で決算できるように各国チャプターの未納会費の回収と法人、個人会員の勧誘に努力を続けて貰いたいとの要請があった。

次に、2019年度の財務計画ではRM5,222の黒字決算の見込みが示され、2018年の認可予算RM5,426とほぼ同じとなった。2020年ではRM17,236の黒字、2021年では反対にRM11,673の赤字(これは2021年春にREAAA大会が開催される経費が見込まれている)と現時点では計画されている。2017年に黒字転換してからバランスのとれた財務計画に移行できつつあることは大変喜ばしい。

(4)事務局長レポート

2018年4月～9月までの6カ月間のREAAA活動について事務局長(Zulakmal氏、マレーシア)から報告があった。

①第109回評議員会の準備について、2018年11月にベトナム・ハノイで開催される災害マネジメント

セミナーに共催する形で計画するも調整に必要な時間不足で不成立。

②その結果を受けて、マレーシア公共事業省とマレーシア道路協会と連絡調整し、10月28～29日に開催されるマレーシア道路会議およびPIARCアセットマネジメントセミナーに併せてREAAA評議員会の開催を決定。

③韓国国土交通省の協力を得ながらニュースレターの準備。

④テクニカルレポート(TC9)舗装材料のリサイクルの技術報告書の印刷およびREAAAウェブサイトへの掲載。さらに(TC10)インフラ・レジリエンスの韓国・日本における状況調査の報告のREAAAウェブサイトへの掲載。

また、今後の評議員会の予定については、次回の第110回評議員会を2019年4月9～13日に台湾、台北での開催を計画していること、その次の第111回評議員会にはPIARCとのジョイントセミナーを計画しているアブダビ(UAE)での開催について、UAEのインフラ開発省、PIARCと協議を開始しているとの報告があった。

(5)技術委員会

技術委員会の報告はオーストラリアのKieran委員長に代わり、技術委員会担当副会長の橋場氏が行った。技術委員会を構成するサブコミッティーには1. Pavement Technology Committee(舗装技術委員会)、2. Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee(気象変動、レジリエンスおよび緊急対応委員会)、および3. Road Safety Committee(道路安全委員会)と3つのサブコミッティーの設立



評議員会メンバー

が提案され、1.には日本がイニシアティブをとり、2.にはオーストラリアが、そして3.はマレーシアが期待されている。この状況のなかで、1.の舗装技術委員会にインドネシアから委員が提案されていないとの指摘を受け、インドネシアが委員を直ちに選出することになった。また2.のレジリエンス委員会にはオーストラリア・日本のみが委員を選出している状況であったが、評議員の中から地域に大規模災害が頻発しているので、早期にこの委員会を立ち上げる必要性があると結論され、早期に委員を選出することが約束された。さらに3.の道路安全委員会にはマレーシアがイニシアティブを執り、マレーシア道路安全研究所のDr. Siti Zaharah Ishak 所長がTORを準備することが決定された。これら3つの技術委員会の成立にはPIARCのROOTEN 会長が歓迎の意を示し、PIARCとの協調に一步踏み出したと言える。

(6)新しいファンド (Hwang Fund) の設立

韓国代表の現 推薦評議員で名誉会員でもある Mr. Kwang-Ung Hwang から申し出があったファンドについて進展があり、韓国の銀行口座に既に9,000万韓国ウォンが振り込まれている。2021年春に開催される REAAA 総会にて初の授賞者が表彰されるが、REAAA に貢献のあった個人(1人)に10,000USドル(約110万円)が授与される計画である。今後の授賞者選定の基準、ノミネーション手順などは Hwang ファンド委員会により示される。その委員会の構成は韓国チャプターから委員長、副委員長には REAAA 事務局長、REAAA 各チャプターから5名、日本から1名の合計8名の委員からなる。

2. YP 会議

10月30日9時より12時半まで第14回 YP 会議が開催された。残念ながら今回の YP 会議には日本の水橋 YP は欠席したが、橋場、黒田の2名がオブザーバー参加した。チェアを務める台湾の Jayson Ni 氏が欠席のため、YP 事務局長の Hamzah Hashim (マレーシア) がチェアを執り議事を進めた。このなかで、台湾の YP からフィリピンやマレーシア、インドネシアでは国内で YP 組織を持ち、積極的に YP 会議に参加していることを参考に組織作りをしたい意向が示された。また YP が YP 会議に参加するための予算

の確保が難しい現実があるため、WEB 上で YP がさらに繋がる方法や FB (フェイスブック) の活用を始める、ビッグデータの活用などは年齢が高い評議員より YP の方が柔軟に提案できるのではないかなど、闊達な意見交換がされ、その後、各国の YP から技術的な発表が行われた。

3. ビジネス・フォーラム

同じく10月30日午後5時から7時半まで第6回ビジネス・フォーラムが開催された。このビジネス・フォーラムの発表者を招待するために REAAA フェロシッププログラムを充て、パキスタン、ベトナムおよびカンボジアから運輸交通省大臣、副大臣が参加することになっていた。直前にキャンセルとなり、急遽、マレーシアの評議員が中心となって発表することになった。期待されたテーマから発表内容が変更され、議論内容もマレーシア色が強いものになってしまったことは悔やまれる。次回の第110回評議員会に併せて開催される第7回ビジネス・フォーラムには今回の予算を充て、多くの発表者が参加して充実したものになると期待している。

あとがき

今回の第109回評議員会は PIARC の Claude VAN ROOTEN 会長を迎えてクアラルンプールで開催された。PIARC の会長から REAAA との2001年および2009年に交わされた MOU に基づき、協働、協調をさらに進めたいとの発言があり、その発言に応える形で REAAA 技術委員会の中に3つの委員会(舗装、レジリエンス、交通安全)の活動が約束された。このことは今回の評議員会のハイライトとなった。日本からは舗装委員会ではイニシアティブを執り、委員長に神谷氏(現 PIARC 舗装委員会委員長)、レジリエンスには田村氏(現 PIARC 防災委員会委員長)、交通安全には専門家を直ちに選出して積極的に参加することを約束している。国際協調および技術委員会担当の橋場副会長を輩出している日本には技術委員会活動を支援する義務がある。官民学からの REAAA 技術委員会へのご支援をお願いしたい。